

低音ジャーナル

2008年6月28日

全国版/隔月刊

執筆責任者/宮澤利

アメリカで活躍する中国人バシスト ジャン・ダシュン、衝撃の日本デビュー

来日前に、彼のホームページにアップされている動画を観、音を聴いて、まず衝撃を受けた。なんというテクニク。なんという豊かな表現力……。

中国出身、アメリカで活躍するソロ・コントラバス奏者、ジャン・ダシュン。これまで日本ではあまり知られていなかった彼が、この5月17日、初のソロ・コンサートを行い、衝撃の日本デビューを飾った。

ジャンは、1981年に中国のコントラバス奏者の家に生まれた。父親だけでなく、親戚中に8人のコントラバス奏者がいるという環境の中、ジャンはまずチェロを始め、9歳でコントラバスへ転向。11歳で北京中央音楽院付属校に入学し16歳で渡米、その後インディアナ大学へ進んだ。そして在学中よりソロ活動を開始し、ヨーヨー・マガが率いるシルクロード・アンサンブル

や室内楽でも活躍することとなる。

ジャンの演奏を聴くと、音楽を観客の心に響かせる豊かな表現力、安定感のある華麗なテクニクに驚かされる。さらに生の演奏では、ホームページの動画では気づかなかった、豊かな音量や伸びやかな音色にも魅力を感じた。

ジャンは、シルクロード・アンサンブルなどの経験で「観客とのコミュニケーション、ほかのプレイヤーとのコミュニケーションの大切さがわかった」というが、今後どこかのオーケストラやグループには所属することなく、ソロというスタンスで活動していきたいという。ソロという、単独のリサイタルやコンチエルトでのオーケストラとの共演をイメージするが、ジャンの目指すソロ活動とは、ジャズ・プレイヤーのようにいろいろな演奏家と自由にユニットを組んで演奏を行うようなことだという。ジャンは、まだ26歳という若さ、今後も活動の幅を広げ、魅力的な音楽世界を見せてくれるに違いない。



演奏会当日行われた、公開レッスンの模様。
写真左は、受講者の一人、岡本典子さん



ジャン・ダシュン (DaXun Zhang)

1981年、中国ハルビン市生まれ。これまでにパシフィック交響楽団などと共演。2005年からは、ニューヨーク、リンカーン・センター室内楽協会IIメンバーとして、演奏会やグラモフォン・レーベルの録音にも参加している。現在テキサス大学オースチン校音楽学部・助教授。ホームページは、[http://www.daxunzhang.com/] CDも発売中(問合せ先: 弦楽器の山本(03-3209-2134))